

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100691		
法人名	社会福祉法人 あすなろ会		
事業所名	グループホーム高草あすなろ		
所在地	鳥取県鳥取市大楠330		
自己評価作成日	平成30年12月18日	評価結果市町村受理日	平成31年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	平成31年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と一緒に作成した作品を地域の公民館祭に出展しています。又、参加する事により地域の方との交流の機会になっています。鳥取こやま地域包括支援センター主催の認知症予防カフェへ利用者と一緒に参加し、認知症の方だけでなく地域の老人会の方とも交流を深めています。職員は進行スタッフとしても関わっています。毎月、大正琴や歌、ハーモニカボランティアの方が訪問され馴染みの関係を築いています。古くから家庭で行われてきた季節の行事を企画して利用者の方に楽しんでいただいています。利用者が、加齢等により人生の終末期の状態を迎えた時、馴染みの関係を維持して本人が望む場所で最期まで暮らす事が出来るように、看取りに関する指針を策定し医療職や家族等と協力して対応しています。管理栄養士が作成したメニューを、地元の食材を使用して提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年4月より新しい管理者が着任され、これまで以上に温かい雰囲気と熱意が感じられました。管理者は、他部署でのこれまでの経験を十分に活かされると共に、地域密着型サービスの意義を踏まえ、積極的に地域交流を図っています。訪問日にも、地域のボランティアの方が来られており、利用者の方々と楽しそうに交流されている様子を見ることができました。共用空間は整然と清潔に保たれ、所々に手作りの作品が置かれ、季節を感じるだけでなく、見る者の心を和やかにさせるものがあります。職員全員がサービスの質の向上を目指し、何よりも利用者を第一に考えていることが強く感じられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関や事務室に掲示すると共に介護士会で唱和をしている。実践に繋がるように、職員個々の名札の裏に入れている。	グループホーム独自の理念を持ち、特に利用者一人ひとりが自分らしく、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように心がけている。毎月行われる介護士会でも唱和をし、職員は常に名札の裏に入れ、意識を高めている。	地域密着型サービスの意義について、大変強い意識を持っておられます。そのみなさんの想いを、もう少し端的に表せる言葉を理念としてまたは目標として表されてはどうでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に作成した作品を公民館祭に出展し、参加する事により地域の方との交流の機会となっている。地域ボランティアの方が毎月来所されたり、地域の小学生との交流もしている。	2か所の公民館祭に出展し、参加もしている。地域のボランティアの方々も毎月訪れ、歌や大正琴、ハーモニカの演奏を聴くだけでなく、一緒に楽しんでいる。名前も顔も覚え合い、心からの交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する情報を広報紙に掲載し、認知症の人に対する実践内容を地域の方に理解して頂けるように5か所の公民館へ直接持参している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。事業所で提供しているサービスを利用者や地域代表、市の担当者、他グループホームの管理者へ報告し、頂いた意見や助言をもとにサービスの向上に繋げている。	通り一遍の会議ではなく、地域住民代表の方が進行役を務められ、大変和気あいあいと、そして活発に意見が出されるものとなっている。委員の方々は、餅つき等イベントにも参加し、理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、鳥取市の職員や鳥取こやま包括支援センターの職員へ提供しているサービスを報告し、関係が密になるように取り組んでいる。	鳥取市とは、日頃から十分な連携が取れる体制ができている。二ヶ月に一度の運営推進会議にも委員として参加してもらい、報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に貫亨の職員必携の中に、「身体拘束ゼロ宣言」と「身体拘束適正化に対する指針」が入っており、日々のケアに活かしている。併設施設の委員会に出席し定期的に確認している。4月の職員全体会で研修会を開催し周知した。	玄関等の施錠は一切行っていない。すべての職員が身体拘束をしないケアを正しく理解するため、毎年研修会を行い、マニュアルも作成している。セルフチェックシートを用い、職員で確認しあってもいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回職員全員にセルフチェックシートを配布、無記名で記入。集計を虐待防止委員会で検討。虐待が見過ごされないようにしている。標語を作成して各部署に掲示し啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度について、必要な利用者があれば活用できるように8月の介護士会で研修した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて丁寧な説明をする事により、理解していただけるように心掛けています。後日、不明な点が発生すれば、いつでも説明させていただく事を申し添えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時には声かけをして信頼関係を築くように努めている。毎年、無記名で家族アンケートを実施。集計結果を廊下に貼って公表している。頂いた意見を職員で共有し、今後の業務に活かすようにしている。	事業所独自のアンケートを毎年実施し、その結果を集計し、丁寧な回答を添えた上で、玄関のよく目に付く所に掲示している。また、家族の来所持には必ず声かけをし、近況報告をしたり、要望を聞き取るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や、毎月開催の介護士会の中で、提案や意見を聞くようにしている。年2回の人事考課時、職員の思いや提案等を業務に反映するようにしている。	管理者と職員は大変良好な関係で、常に気づいたことを話し合っている。管理者は、人事考課の面談時には特に時間をかけ、職員の思いや意見を聞くように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中で、努力や目標に対する達成度等を評価し、やりがいに繋がるように人事考課の面談で話をしている。結果に基づき給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修や、職員の習熟度に応じた法人内研修がある。法人の事例発表が毎年あり、自分たちのケアを見つめ直す機会となっている。法人外研修受講時は、伝達講習をする事で参加していない職員にも周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者で構成する会が年4回あり情報交換している。合同レクリエーションに50名位参加し交流を深めた。グループホーム協会主催の相互研修に職員が参加し他施設の良い点を吸収し自施設でのサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実調時に本人・家族と面談して情報収集し、要望や状態の把握に努めている。入所後も、不安なことや要望に耳を傾け安心して暮らしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい環境で安心して生活できるように、家族の要望や不安な事を聞き取り、情報を整理して支援を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態を確認しグループホームで出来る支援を説明している。必要に応じて併設施設と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能の維持に努め、能力を見極めながらできる範囲で一緒に行える関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子を伝え、家族からも希望や情報を提供してもらい、同じ方向で支援して行ける様な関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に、必要物品の持ち込みや受診の付き添い等の役割を持ってもらい、疎遠にならないようにしている。家族や友人の面会時、居室でゆっくり話が出来るように対応し、関係の継続に配慮している。	家族には、生活必需品を持ってきてもらうなどのお願いをするなど、できるだけ来所してもらう機会を作っている。面会時には、居室でゆっくり話ができるように対応し、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や身体状況を考慮しながら、デイルームの席を決めて利用者同士が関われるようにしたり、職員が間に入り良い関係が気付けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して併設の施設入所となった利用者が、尋ねて来ており、馴染みの関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分のペースで生活できるように、希望や意見を聞きながら支援している。言語的コミュニケーションが図れない利用者には、表情や仕草の中で判断したり、職員間で情報を共有し意向を汲み取るようにしている。	意思表示の困難な方でも、こまめに話しかけ、表情や小さな変化も見逃さないようにするなど、注意深く接している。職員用のノートで情報を共有し、少しでも利用者の意向に沿えるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの生活スタイルを聞き取り、今後の生活に繋がるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時は、バイタル・食事・水分等の記録表や職員間の共有ノートを確認し、勤務者から申し送りを受け、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き取りし、モニタリング・評価を職員と話し合い、介護計画の原案を作成。本人・家族同席の担当者会議で介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、利用者一人ひとりの状態に沿った介護計画が立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な情報はパソコンに入力し、共有できるようになっている。毎月開催の介護士会で、個別にケース検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの職員だけではなく、併設施設の専門職と連携し、柔軟な支援やサービス提供が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会を開催し地域の方から支援していただいている。公民館等の地域行事に参加する事で地域との繋がりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の意向を尊重し主治医を決めている。感染症や寒い時期の受診を考慮し、往診できる主治医を希望される家族には対応している。	家族や本人の希望に添った受診支援を行っている。受診結果は、何か問題や変化があった場合、家族に速やかに報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と連携し、普段から報告・相談を行っている。特変時には指示を受け、重篤にならないように受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年の4月に様子観察の為の1日入院があった。入院時には、病院関係者への情報提供を行い、早期に退院できるように努め、利用者・家族の不安軽減に繋がった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り(終末期)に関する指針があり、入所時に説明を行っている。入所後も必要に応じて話し合いの場を持ち、意向確認している。	終末期に支援については、積極的な治療を希望される場合を除いて、できるだけ家族の意向に沿って行っている。職員は、併設の特養での経験があるものもあり、終末期の在り方については十分に理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが整備されている。救命救急の研修について、今年度の実施に向けて計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成。実践できるように年2回避難訓練を実施。地域の防災分団と合同で夜間の避難訓練に取り組み協力を得ている。今年の夏、地元の方1名が高草に避難、宿泊された。	実際に夜間での訓練を行っている。マニュアルも作成され、職員の不安も払拭されている。備蓄や保存水、寝具等も完備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員を対象とした虐待のセルフチェックを年2回実施。その中に、利用者の人格尊重やプライバシーの確保についても確認した。	「虐待の芽チェックシート」を使い、全職員を対象に無記名での調査を行い、自分だけでなく周りでプライバシーが侵害されるようなことが起こっていないかを確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の想いを汲み取り、能力が発揮できるような働きかけをする事で、自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のペースではなく、本人のその日の思いを優先し、希望に添った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時、本人の想いを尊重し自由に服を選んで頂いている。散髪やパーマも定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力と意向を確認し、食材の受け取りや食事作り、片付け等、一緒に行っている。	献立は、管理栄養士が考えているが、利用者の好みや希望に添うこともできる。箸や茶碗は自分専用のものを使い、食器も陶器を使用することで、少しでも食事を楽しんでもらえるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したあすなろ会の統一メニューを使用している。本人の状態に合わせて水分や食事が摂取出来るように、食事形態を工夫したり摂取量の記録をして、必要な量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じて声かけや介助を行い、毎食後口腔ケアをしている。週に1回、義歯洗浄剤を使用し清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけによりトイレでの排泄を支援している。使用するパットの種類も時間帯に応じて使い分け、個々に合ったものを使用している。毎月の介護士会で、排泄について確認している。	一人ひとりの行動パターンを把握し、動きを見ながら適切なトイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ポカリゼリーを提供したり、トロミ剤を使用して摂取しやすくしている。毎日のラジオ体操への参加を促し、体を動かしてもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、本人の体調や気分が乗らない時、行事やボランティアの来所等、臨機応変に対応している。近所の人から袖子をいただいた時は、浴槽に入れて季節を感じていただいた。	基本的に週2回以上の入浴としているが、本人の希望や体調によって支援できる体制を築いている。入浴を嫌がる人にも、無理強いをするのではなく、声かけの仕方を工夫しながら、入浴が楽しいものとなるような支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、夜間良眠出来るように努めている。食後に休息したりそのままデイルームで過ごされる等、本人に希望を確認している。意思表示困難な利用者については、状態を見て職員が判断している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・医師へ状態を報告している。処方箋をカルテに綴り、往診の利用者については、変更があれば職員だけでなく家族へも伝えている。服薬を確実に行為、施設が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた壁面作り等、利用者と一緒にできる事を行っている。食事作りの手伝いやテーブル拭き、洗濯物をたたんだり、役割を持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には、本人の食べたい物を聞き職員と一緒に外食やドライブに出かけている。外出できる利用者が限定されないよう、全員が外出できる企画もしている。	季節に合わせて戸外でお茶を楽しんだり、外食やドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、お金の支払いが発生する時は、事前に家族へ連絡し使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日等、県外の子どもから荷物が届いた時、電話をかけて直接話しができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や居室入口には、季節を感じられるように作品を展示している。ダイルームの掃き出し窓から、紅葉する木々やその日の天候等が視覚で感じられる。廊下に置いてあるソファは、くつろぎの場となっている。	共用空間は明るく清潔に保たれている。自然のものを上手に利用し、季節を感じることができる作品が飾られ、温かい雰囲気づくりに役立っている。所々にソファが設置され、いつでもゆっくりと寛げるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時や休息したい時は居室に行かれたり、寂しいからと、ダイルームで気の合った利用者と過ごされる事もあります。その時の思いで自由に過ごす事が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族に説明をして、出来るだけ家で使用されていた物を居室に持参していただき、居心地良く過ごせるようにしている。	居室は畳の部屋とフローリングと二種類ある。どの部屋もきれいに清掃され、思い思いの家具を置き、居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が理解出来るように表札を設置している。排泄後、自分の席に着くまでに休息したい利用者には、途中に椅子を設置している。		